

□議員名：岡山 明

1 児童生徒に対する冬場の学習環境の整備について

論点	各小中学校において、冬場の学習環境は十分に調査、整備されているか。
回答	冬場の寒さ対策として、小学校の全ての普通教室にストーブを配備、中学校にはない。文部科学省は室温10℃以上が望ましいとする。昨年2中学校で調査した教室の温度は10℃以上が85%と88%だった。寒さ対策として、必要な事業として引き続き検討する。

論点	せめて受験を控えた中学3年生の教室にストーブ設置を、同じ学習環境の中で他市と遜色なく、受験にチャレンジさせたいがどうか。
回答	3年生であるからということでの、特別扱いは難しい。教室の実際の温度測定でも、教室間によって非常に温度差がある。もし部分的に取り付けるとなれば、温度が優先される。ただ、今考えているのは、全学年の普通教室一斉にという考え方である。

2 災害時の備蓄に対する取組について

論点	内閣府の調査では、災害に備え非常用食料の備蓄を行なっている住民は5割以下である事が確認されているが、対応はどうか。
回答	アルファ米350食、クラッカー490食、500ml入りのペットボトル1584本を避難所11カ所に分散している。その他、毛布、救護セット、日用品も。賞味期限1年前には更新し、イベントなどで活用している。備蓄倉庫を新たに市役所敷地内に整備する。

論点	備蓄に対し、食物アレルギーの子供たちへの配慮として、アレルギー対応食の備蓄品の配備はどうか。
回答	避難所生活において、個々の事情による食べ物については、今後検討するが、とりわけアレルギー対策は非常に重要であり、命にかかわる問題である。今、備蓄している物品については、必ずしもそうならないので、鋭意進めていく。

### 3 老朽化が進む都市基盤の整備について

論点	社会情勢が変化する中で、急速に老朽化が進むであろう都市基盤の整備、なかんずく、道路・橋梁の現状はどうか。
回答	橋梁については、建設後50年を経過した橋が197橋中14%の28橋あり、20年後には85%を占める事になる。5年に一度の橋梁点検を行うと共に、長寿命化計画に基づき予防保全及び事後保全を実施する。